千の葉の芸術祭　実施計画書（Ver.1）

千の葉の芸術祭
CHIBA CITY FESTIVAL OF ARTS

令和３年３月

千葉市・千の葉の芸術祭　実行委員会

目次

１．開催概要 3
２．各ディレクターの紹介 4
３．写真芸術展 5
４．体験・創造ワークショップ 23
５．伝統文化と新しい文化の発信 28
６．市民参加について 32
７．広報広告について（株式会社 ADK クリエイティブ・ワン受託業務） 32
８．千葉都市モノレール、京成バス　千の葉の芸術祭フルラッピング広告 33
９．　各種認証マークについて 34
10.　輸送交通について 34

１．開催概要

①芸術祭タイトル：千の葉の芸術祭
②芸術祭キーワード：変化 / CHANGE
③芸術祭コンセプト：アートでつながる　アートでつなげる　自由なアートが人と社会をかえていく
④開催目的（レガシー）
・市制 100 周年を迎えたことを契機に、本市の「自然や歴史に根差した固有の文化力」と「技術の進展によって生まれた新しい文化力」を市民が再認識できる。
・「文化芸術の間口を広く、敷居を無くし、日常的な活動へと広げる取組」の機会を創出する。
⑤主催：千の葉の芸術祭 実行委員会
（構成団体：千葉市、公益財団法人千葉市文化振興財団、公益財団法人千葉市教育振興財団、千葉市文化連盟、公益社団法人千葉市観光協会、千葉市メディア芸術振興事業実行委員会）
⑥開催期間　令和３年７月 24 日（土）～令和３年９月 12 日（日）までを、「千の葉の芸術祭本イベント期間」とする。

【写真芸術展】　令和３年８月２１日（土）～９月１２日（日）
【体験・創造ワークショップ】　令和３年４月中旬：募集開始、６月～７月：講座開催
８月～９月：成果発表
【伝統芸能と新しい文化の発信】　令和３年７月２４日（土）～８月８日（日）
※「伝統芸能の発信」は８月６日（金）・７日（土）

⑦開催会場
写真芸術展：千葉市美術館、千葉公園（蓮華亭・好日亭）、千葉市民ギャラリー・いなげ、　など
体験・創造ワークショップ：千葉市生涯学習センター　など
伝統文化と新しい文化の発信：県立幕張海浜公園（見浜園）

⑧企画概要
【写真芸術展】
第一線で活躍するアーティスト（12 名予定）が、市の資源（地域資源や人的資源など）を被写体に、メッセージ性の高い写真作品を制作し、展示することにより、多様な資源を持つ市の魅力を広く発信する。
【体験・創造ワークショップ】
本市で実施してきた体験・創造ワークショップ「ななめな学校」を活用し、これまで主な対象者としていた小学生のみならず、大人も対象に開催する。（４講座×５回）
【伝統文化と新しい文化の発信】
見浜園で、市民や本市への来訪者を対象に、８月６日・７日の日中は伝統文化（市文化団体：２団体）の体験鑑賞会を、また、期間中の夜は光を使ったインスタレーション等のイベントを開催する。
【広報活動】
ＷＥＢでの広報、チラシやガイドマップ等の配布、ＳＮＳでの発信を行うとともに、千葉都市モノレールの車両と海浜幕張駅周辺を運行する京成連節バスの車両にラッピングを行うなどの広報活動を行う。

２．各ディレクターの紹介

総合ディレクター　神野（じんの） 真吾（しんご）

千葉大学 教育学部 芸術学研究室　准教授

（１）千葉市とのかかわり
・千葉市文化芸術振興会議 委員長
・千葉市ナイトタイムエコノミー推進審議会 委員長
・千葉市美術館アウトリーチプログラム「千葉アートネットワーク・プロジェクト（WiCAN)」代表

（２）その他のアート関係の役職
・国立美術館の教育普及事業等に関する委員会 委員
・東京大学「社会を指向するアートマネジメント人材育成事業」AMSEA 副代表
・角川武蔵野ミュージアム　ボードメンバー（アート担当）

ディレクター　粟生田（あおた） 弓（ゆみ）

日本写真史研究家

1980 年東京都生まれ。
2009 年 4 月株式会社リヴォラをデザイナーと共に設立。ファッションブランド RIVORA を運営する。また、東京大学情報学環特任助教(文化庁 大学における文化芸術推進事業 付)に携わる(2017～2019 年)。著書に『写真をアートにした男 石原悦郎とツァイト・フォト・サロン』（小学館）、編著に『1985/写真がアートになったとき』（青弓社）。写真やアートに関する執筆を行う。

アートディレクター　おおうち おさむ

グラフィックデザイナー

1971 年生まれ、千葉市稲毛区で育つ。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒。
（故）田中一光に師事し、2003 年 7 月 7 日に有限会社ナノナノグラフィックスを設立。
　平面と空間の相乗効果を創作の軸に置き、グラフィックからスペースデザインまで幅広い活動を展開。国内外問わず著名写真家やアーティストのデザインを手がけている。

３．写真芸術展

千葉市の魅力を、様々なアーティストが撮り下ろした写真作品で表現し、市の魅力を市民の方に再認識していただくとともに、来葉された方々にもその魅力を知っていただく。

また、「千葉市美術館」以外に、「旧神谷伝兵衛稲毛別荘」や「千葉市ゆかりの家・いなげ」なども展示会場として活用し、作品とそれぞれの場所の魅力を際立たせるデザイン性の高い会場設営を施すことで、各施設の新たな一面も体感してもらう。

（１）名称　CHIBA FOTO

（２）開催期間　令和３年８月 21 日（土）～9 月 12 日（日）

（３）展示会場紹介

千葉市美術館	円柱が並ぶネオ・ルネサンス様式の空間である１Ｆさや堂ホールと、9F の市民ギャラリー、中央区内が一望できる 11F 講堂を展示会場として使用。（千葉市美術館は令和２年７月にリニューアルオープン）
千葉公園	都心部にありながら緑豊かで市民の憩いの場である千葉公園内の蓮華亭（オオガハスの展示資料館）と好日亭（茶室）を展示会場として使用。
千葉市中央コミュニティセンター	サークル活動やレクリエーション活動など地域市民の憩いの場となっている施設。千葉都市モノレール「市役所前駅」から直結の 2F スペース及び大木ナカ氏から市に遺贈された邸宅などを利用した松波分室を展示会場として使用。
千葉市民ギャラリー・いなげ	地域のアートの拠点であり、地域と密着したイベントも多数開催する市民ギャラリーいなげの２Ｆを展示会場として使用。
旧神谷伝兵衛稲毛別荘	浅草の神谷バーや茨城の牛久シャトーの創設者「日本のワイン王・神谷伝兵衛」が大正７年に別荘として建て、稲毛が海辺の保養地だった頃の記憶を物語る建物として価値がある洋館の 1･2F を展示会場として使用。
千葉市ゆかりの家・いなげ	保養地としての稲毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築である「ゆかりの家」を展示会場として使用。昭和 12 年には、中国清朝のラストエンペラー愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑と妻・浩が、半年ほどこちらに居を構え、新婚生活を送った。

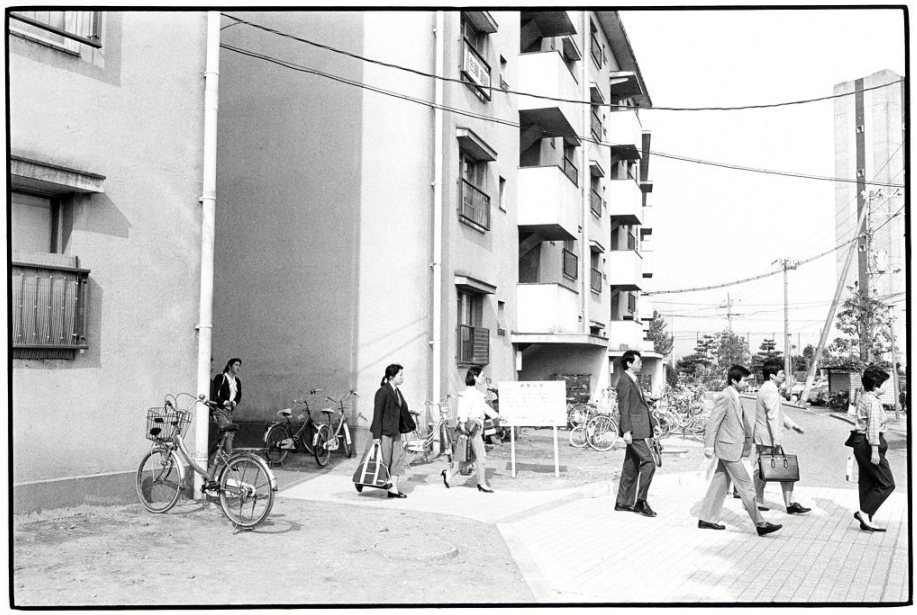
（４）展示場所

北井（きたい）　一夫（かずお）	千葉市美術館（講堂）	中央区エリア
佐藤（さとう）　信太郎（しんたろう）	千葉市美術館（さや堂ホール）	
蔵（くら）　真墨（ますみ）	千葉市美術館（さや堂ホール）	
本城（ほんじょう）　直季（なおき）	千葉市美術館（市民ギャラリー）	

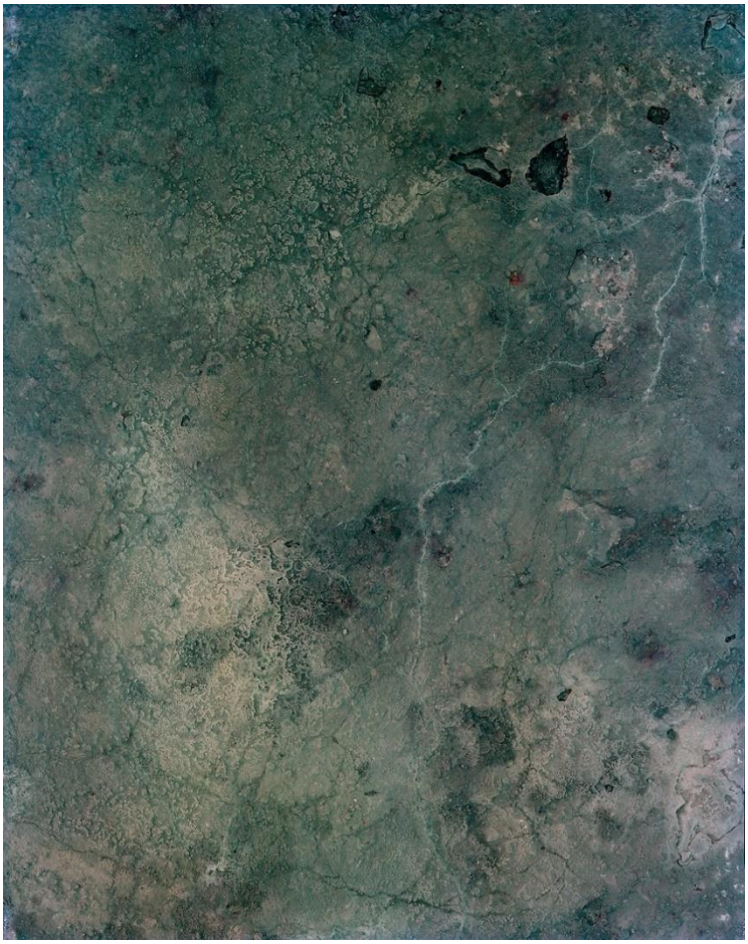
新井　卓	千葉公園（好日亭）	中央区エリア
吉田　志穂	千葉公園（蓮華亭）	
清水　裕貴	千葉市中央コミュニティセンター２階　空きスペース	
川内　倫子	千葉市中央コミュニティセンター松波分室	
宇佐美　雅浩	未定	
横湯　久美	旧神谷伝兵衛稲毛別荘（２F）	稲毛区エリア
金川　晋吾	旧神谷伝兵衛稲毛別荘（１F・B１F）	
栖橋　朝子	千葉市ゆかりの家・いなげ	
アーカイブ展	千葉市民ギャラリーいなげ（２F）	

（５）各展示について

作家名	北井　一夫
作家プロフィール	1944 年中国鞍山市生まれ、日本大学芸術学部写真学科中退。日本写真協会新人賞受賞。第一回木村伊兵衛写真賞受賞。日本写真協会作家賞受賞。写真展多数。主な写真集に「三里塚」「村へ」「新世界物語」「フナバシストーリー」「道」「流れ雲旅」など。
展覧会タイトル（予定）	MICHI
作品のテーマ	いまも千葉県内に居住する北井一夫には、千葉を舞台にした作品が数多くある。そこからは半世紀以上前の、海の香り漂う千葉の風景や当時の人々の暮らしが感じ取れる。本展では、現在の千葉市内をデジタルカメラで撮影した新作「道」に至る経緯を、これまでの千葉での写真等と共にみせていく。北井一夫の半世紀以上に及ぶ仕事の道のりで生み出された、カメラ雑誌（掲載ページ）をはじめ、ポスター、カレンダーといった印刷物。そして 50 冊近い写真集とその版下や刷り出し原稿や、貴重なヴィンテージ・プリントまで、様々なコンディションの写真が展示される。複製、印刷といった文化の裏舞台が見られることも見どころである。
点数（予定）	約 100 点程度（作品と資料により構成）
会場と開館時間（予定）	千葉市美術館（講堂）

作品イメージ	 ©kazuo Kitai

作家名	佐藤（さとう）　信太郎（しんたろう）
展覧会タイトル（予定）	Geography / Boundaries
作家プロフィール	1969 年、東京に生まれる。1992 年、東京綜合写真専門学校卒業。1995 年に早稲田大学第一文学部を卒業後、共同通信社に入社。2002 年よりフリーの写真家として活動する。2012 年に林忠彦賞、2009 年に千葉市芸術文化新人賞、日本写真協会賞新人賞を受賞。
作品のテーマ	千葉市に暮らす佐藤信太郎は、2 つのシリーズからなる展覧会を行う。Geography は、1992 年の冬に東京湾岸の埋立地の地表を大判カメラで撮影した全 6 作品からなるシリーズ。Boundaries は「境界」をテーマにしたシリーズで、今回出品される作品は、稲毛をはじめ千葉市内で撮影されている。坂が多い土地特有の高低差といった距離感や、季節の移り変わりによる時間感覚が揺さぶられる不思議な奥行きを持つ作品だ。このふたつが効果的な方法で展示され、鑑賞者は独特の世界観を体感することができる。
点数（予定）	12 点
会場と開館時間（予定）	千葉市美術館（さや堂）

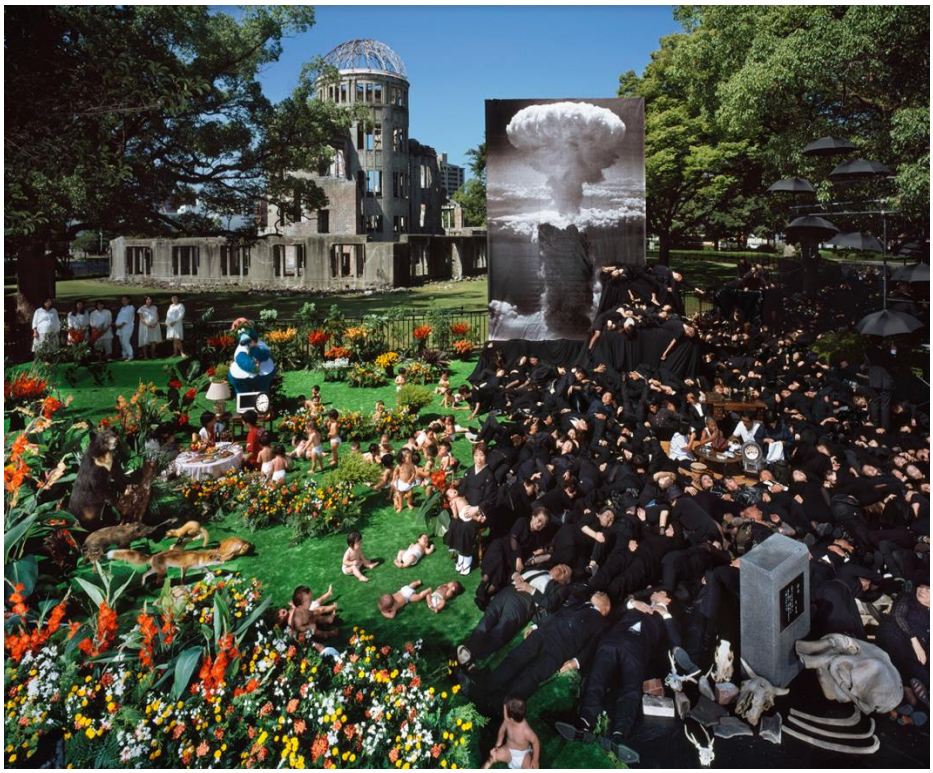
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Shintaro Sato 佐藤信太郎 過去の展覧会風景（参考）

作家名	本城（ほんじょう）　直季（なおき）
作家プロフィール	1978 年、東京都出身。東京工芸大学芸術学部写真学科卒業、同大学院芸術研究科メディアアート修了。実在の風景を独特のジオラマ写真のように撮影した写真集『small planet』で 2006 年度木村伊兵衛賞を受賞し、一躍注目を集める。
展覧会タイトル（予定）	地域と学校 small planet　Chiba
作品のテーマ	空から撮影される千葉市の街、工業地帯、ロッテ野球場（仮）の作品や、学校を被写体としたシリーズ Small garden では市内の小学校で行われた運動会風景などを撮り下ろしている。 本展において「学校」は象徴的な場所だ。高等特別支援学校に通う生徒たちとの交流から生まれた、本城直季の作品でこれまであまり見られなかったポートレートや、小学校でのコマ撮りを繋げた映像作品も上映される。また、ワークショップで撮影された作品も会場に展示する。
点数（予定）	約 50 点
会場と開館時間（予定）	千葉市美術館（市民ギャラリー）
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Naoki Honjo 本城直季 過去の展覧会風景（参考）

作家名	蔵（くら）　真墨（ますみ）
作家プロフィール	富山県生まれ。同志社大学文学部英文学科卒業。東京ビジュアルアーツ写真学科に学ぶ。2010 年、第 10 回さがみはら写真新人奨励賞。 長年ストリートスナップで人物を撮影している。作品は東京都写真美術館、サンフランシスコ近代美術館などに収蔵されている。
展覧会タイトル（予定）	千の葉の人々
作品のテーマ	国内外のさまざまな街に暮らす人々を、訪問者の眼線で表現してきた蔵真墨による、街中でのポートレートを中心とした展覧会。蔵にとって千葉という場所は未知の場所であるが、創作を通じて人々と交流することで「独特の地方性があり人々のおおらかで安定した雰囲気」を感じ取られた。市内で撮り下ろされた作品からは、千葉市に暮らす多様な文化的背景を持つ人々の存在が浮かび上がり、人を通じて街のアイデンティティが見えてくる。また、本作は 2020 年、21 年にかけての作品で、コロナ禍の街の様子を必然的に写し出している。今回は作家としては珍しくモノクロ写真で表現される。さや堂という歴史的建造物の中で、今を生きる人々から時代を表現する。
点数（予定）	約 30 点
会場と開館時間（予定）	千葉市美術館（さや堂）
作品イメージ 展覧会風景参考写真	【作品イメージと展覧会風景参考写真】 ©Masumi Kura 蔵真墨 過去の展覧会風景（参考）

作家名	新井（あらい）　卓（たかし）
作家プロフィール	1978 年神奈川県川崎市生まれ。近年は映画制作、執筆、環境史学共同研究のほか多岐にわたる活動を展開。2016 年に第 41 回木村伊兵衛写真賞、2018 年に映像詩『オシラ鏡』で第 72 回サレルノ国際映画祭短編映画部門最高賞ほか受賞多数。
展覧会タイトル（予定）	渚にて
作品のテーマ	ダゲレオタイプという写真黎明期に誕生した技法で創作する新井卓による展覧会。千葉の海岸線を北上しながら、太平洋沿岸の景色を撮影する。ダゲレオタイプは写真が複製技術になる前の技法で、像は鏡に定着される。そのため鑑賞者が作品と向かい合うと、自ずと自身がそこに写され、被写体の中に入り込むという体験を味わうことができる。新型コロナの影響で延期になったことで、開催年が東日本大震災から 10 年目となるが、被災した千葉から東日本沿岸の今を海を通じて捉え、時間や空間のつながりを描き出す。
点数（予定）	複数枚からなる 1 点、他 2 点
会場と開館時間（予定）	千葉公園（好日亭）
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Takashi Arai 新井卓 過去の展覧会風景（参考）

作家名	吉田（よしだ）　志穂（しほ）
作家プロフィール	1992 年生まれ。2014 年「第 11 回写真 1_WALL」グランプリ受賞。主な個展に「第 11 回 shiseido art egg」展（17 年、SHISEIDO GALLERY）「Quarry / ある石の話 」（18 年、Yumiko Chiba Associates）など
展覧会タイトル（予定）	空白と考古学
作品のテーマ	歴史や時間的な積層に着目し、フィルムカメラで撮影した写真や、インターネット上の画像までをも作品に取り入れる吉田志穂によるインスタレーション。加曽利貝塚の存在をきっかけに縄文文化へと深く潜り込み、歴史からのインスピレーションを表現する。かつて同じ大地の上に暮らした縄文の人々と、現代を生きるわたしたちとのつながりが感じられる。
点数（予定）	約 20 点
会場と開館時間（予定）	千葉公園（蓮華亭）
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Shiho Yoshida 吉田志穂 過去の展覧会風景（参考）

作家名	宇佐美 雅浩（うさみ まさひろ）
作家プロフィール	1972 年千葉県千葉市生まれ。97 年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。仏教絵画の「曼荼羅」の如く、中心人物と、その人物の世界を表現する物や人々を周囲に配置し、1 枚の写真に収める「Manda-la」プロジェクトを 20 年以上続けている。様々な地域を舞台に、リサーチや対話を重ねて制作されるその写真は、地域の歴史や社会をも映し出す。
展覧会タイトル（予定）	Masahiro Usami Manda-la “宇佐美正夫 千葉 2021”
作品のテーマ	千葉市で育ち、実家を千葉市に持つ宇佐美雅浩は、自身の代表作である『Manda-la』の最新作として、鉄鋼の街、千葉を描く。ひとりの人を通じて、その場の持つ記憶を一枚の写真絵巻に出現させる Manda-la は、今回、JFE スチール株式会社の協力を得て、元社員である実父を通じて壮大に描き出される。合成技術は使われていない。そこに映る人々や物の全ては実際に同じ時、同じ場所に集まり、撮影される。
点数（予定）	大型作品 1 点（その他にムービーと作画を展示）
会場と開館時間（予定）	未定
作品イメージ 展覧会風景参考写真	【作品イメージと展覧会風景参考写真】  ©Masahiro Usami

	 宇佐美雅浩 過去の展覧会風景（参考）

作家名	川内（かわうち）　倫子（りんこ）
作家プロフィール	1997 年に「うたたね」で第 9 回ひとつぼ展グランプリ（写真部門）受賞。繊細な色彩感覚と独自の眼差しで日常を表現し、一躍注目を集める。2002 年、木村伊兵衛写真賞受賞。主な個展に、2005 年「AILA + Cui Cui + the eyes, the ears,」（カルティエ財団美術館，パリ）、2012 年「照度 あめつち 影を見る」（東京都写真美術館、東京）、2016 年「川が私を受け入れてくれた」（熊本現代美術館,熊本）他、国際的に展覧会を多数開催。写真集に『Illuminance』『あめつち』『Halo』『as it is』他。2017 年、千葉県に移住。
展覧会タイトル（予定）	as it is
作品のテーマ	2016 年に出産、子育てをする中で巡り合った千葉の土地での新しい生活の断片を、子どもの成長と合わせて描き出す。四季の移り変わりを通じて出会う自然と光の美しさ、暮らしの中で見つける小さな生き物たち、初めて体験する死という出来事―それらのささやかな物事に宿る生命の美しさと、その気づきから積み重なっていく日々。これらの写真と映像を人々に愛される地域施設である旧大木ナカ邸の、小さな小部屋で仕切られた空間に散りばめる。
点数（予定）	約 50 点
会場と開館時間（予定）	千葉市中央コミュニティセンター松波分室（旧大木ナカ邸）

作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Rinko Kawauchi 川内倫子 過去の展覧会風景（参考）

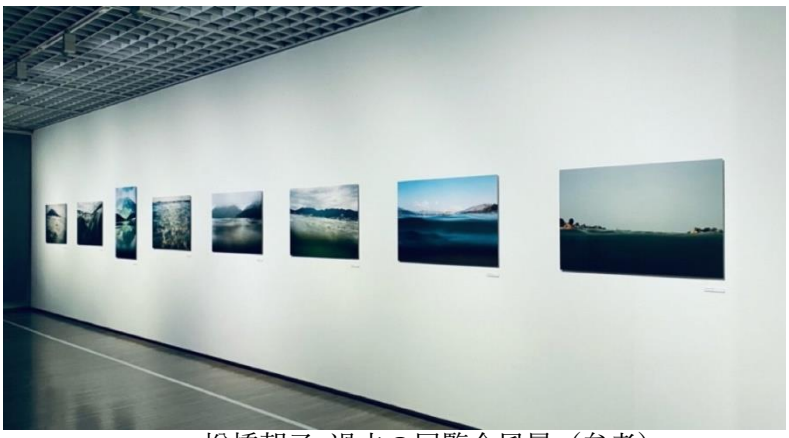
作家名	清水（しみず）　裕貴（ゆき）
作家プロフィール	2007 年武蔵野美術大学映像学科卒業。2011 年 1Wall グランプリ受賞。2016 年三木淳賞受賞。土地の歴史や伝承のリサーチをベースにして、写真と言葉を組み合わせて風景を表現している。主な個展に「empty garden」（PGI 2019）、「birthday beach」（nap gallery 2019）近年は小説も発表。2018 年新潮社 R18 文学賞大賞受賞。新潮社から「ここは夜のほとり」出版。
展覧会タイトル（予定）	コールドスリープ

作品のテーマ	旧千葉市の中心地区に栄えた「蓮池」という花街をモチーフに、過去と現在を行き来する物語を、写真と文章のインスタレーションで表現する。展示会場となる元喫茶店の空間では、時計やグラス、花などと合わせて作品が展示される。小説家としても活躍する清水裕貴は、本展に書き下ろしの小説も創作する。
点数（予定）	写真作品 30 点、その他テキスト、プロジェクション、グラス、布
会場と開館時間（予定）	千葉市中央コミュニティセンター２階　空きスペース
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Yuki Shimizu 清水裕貴 過去の展覧会風景（参考）

作家名	横湯（よこゆ）　久美（くみ）
作家プロフィール	1966 年生まれ。東京藝術大学、The Slade School of Fine Art 修了。原爆の図丸木美術館にて個展開催。サンフランシスコ近代美術館所蔵 等。第二次世界大戦を弾圧のもとで生き残った祖母の話を、20 世紀の民話のようなものとして捉えつつ、死者の声はもう聴けないのか、生き残った者は死者や過

	去とどのようにつき合うのか写真とテキストで探っている。
展覧会タイトル（予定）	その時のしるし ／ There Once Was
作品のテーマ	油画や彫刻への造詣を持ちながら、写真表現に辿り着いた横湯久美による作品展。祖母という身近な人の「死」、そこからはじまる深い悲しみに、個人的な方法で納得のいくまで向き合うなかで生まれた作品群が、旧神谷伝兵衛稲毛別荘（2F）という元々プライベートのためにつくられた空間をつかって展示される。
点数（予定）	約 20 点
会場と開館時間（予定）	旧神谷伝兵衛稲毛別荘 2F
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Kumi Yokoyu 横湯久美 過去の展覧会風景（参考）

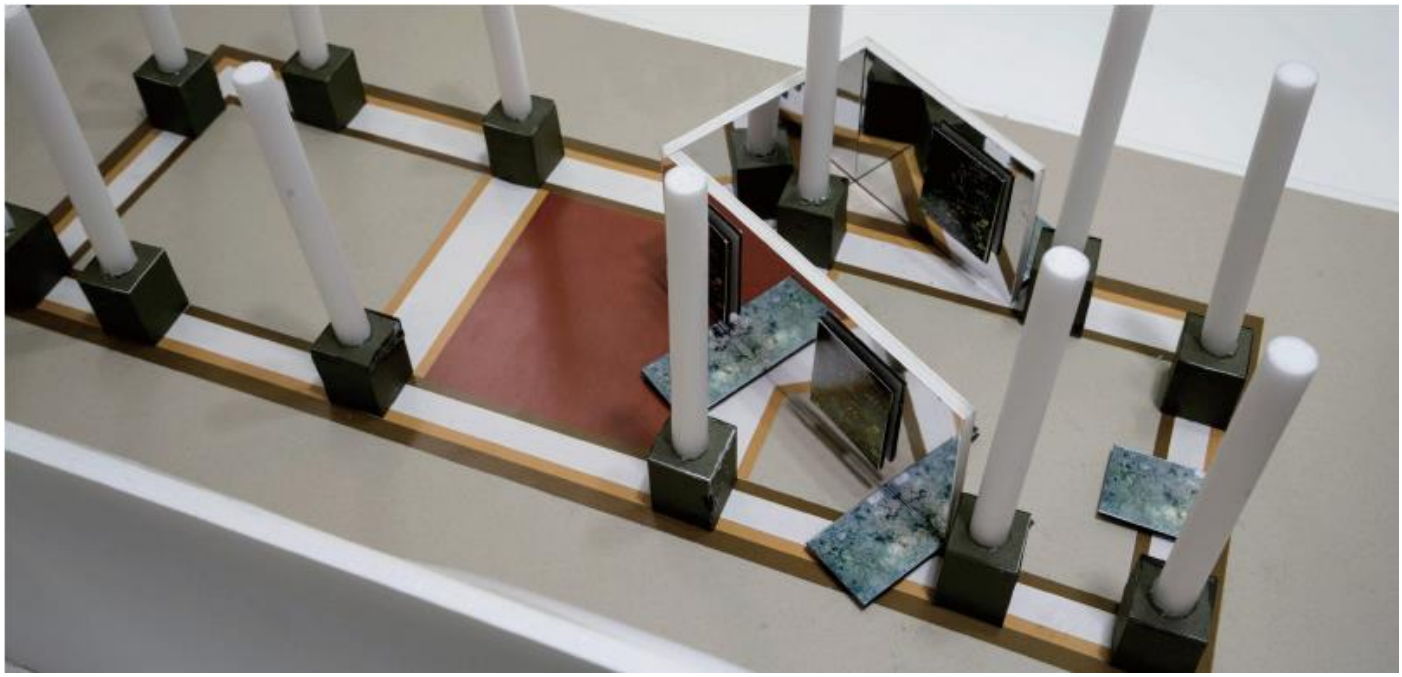
作家名	金川（かながわ）　晋吾（しんご）
作家プロフィール	1981 年京都府生まれ。神戸大学卒業。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。三木淳賞、さがみはら写真新人奨励賞受賞。2016 年青幻舎より「father」刊行。近年の主な展覧会としては、2019 年「同じ別の生き物」アンスティチュ・フランセ、2018 年「長い間」横浜市民ギャラリーあざみ野など。
展覧会タイトル（予定）	わたしの記録
作品のテーマ	金川晋吾は、旧神谷伝兵衛稲毛別荘の過去を探る中で出会ったシズさんという女性の写真と日記をきっかけに、歴史書には残ることはない複数の「わたし」の存在を描き出す。1F では、今を生きるひとびとのポートレート作品とシズさんの記録を展示し、会場の地下空間では、過去の日記を読み上げる声を音のインスタレーションで表現する。
点数（予定）	約 40 点（作品と資料）
会場と開館時間（予定）	旧神谷伝兵衛稲毛別荘 1F, B1F
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Shingo Kanagawa 金川晋吾 過去の展覧会風景（参考）

作家名	楢橋（ならはし）　朝子（あさこ）
作家プロフィール	1959 年東京生れ。早稲田大学第二文学部美術専攻卒業。80 年代半ばより写真活動を始め、03FOTOS を立ち上げる。国内外での個展、グループ展多数。写真集に「NU•E」「フニクリフニクラ」「half awake and half asleep in the water」「Ever After」など。日本写真協会新人賞、東川賞国内作家賞、写真の会賞受賞。
展覧会タイトル（予定）	Sea Side Line
作品のテーマ	水中からの眺めという非日常的な視点から、人の暮らしのある場所を捉える楢橋朝子は、保養地として栄えた稲毛の面影を宿す、ゆかりの家・いなげで展覧会を行う。かつて、そこから海を眺めることのできたゆかりの家に、楢橋による海や水辺からの風景が持ち込まれという視線の逆転が面白い。本展のために、撮影を行った場所は稲毛、千葉みなと、検見川のほか、池なども含まれる。海と緑に囲まれた千葉が抱える豊かな自然と、人工浜やヨットなどのレジャーも盛んなこの街の、様々な相貌が意外な形で描き出される。
点数（予定）	約 10 数点
会場と開館時間（予定）	千葉市ゆかりの家・いなげ
作品イメージ 展覧会風景参考写真	 ©Asako Narahashi  楢橋朝子 過去の展覧会風景（参考）

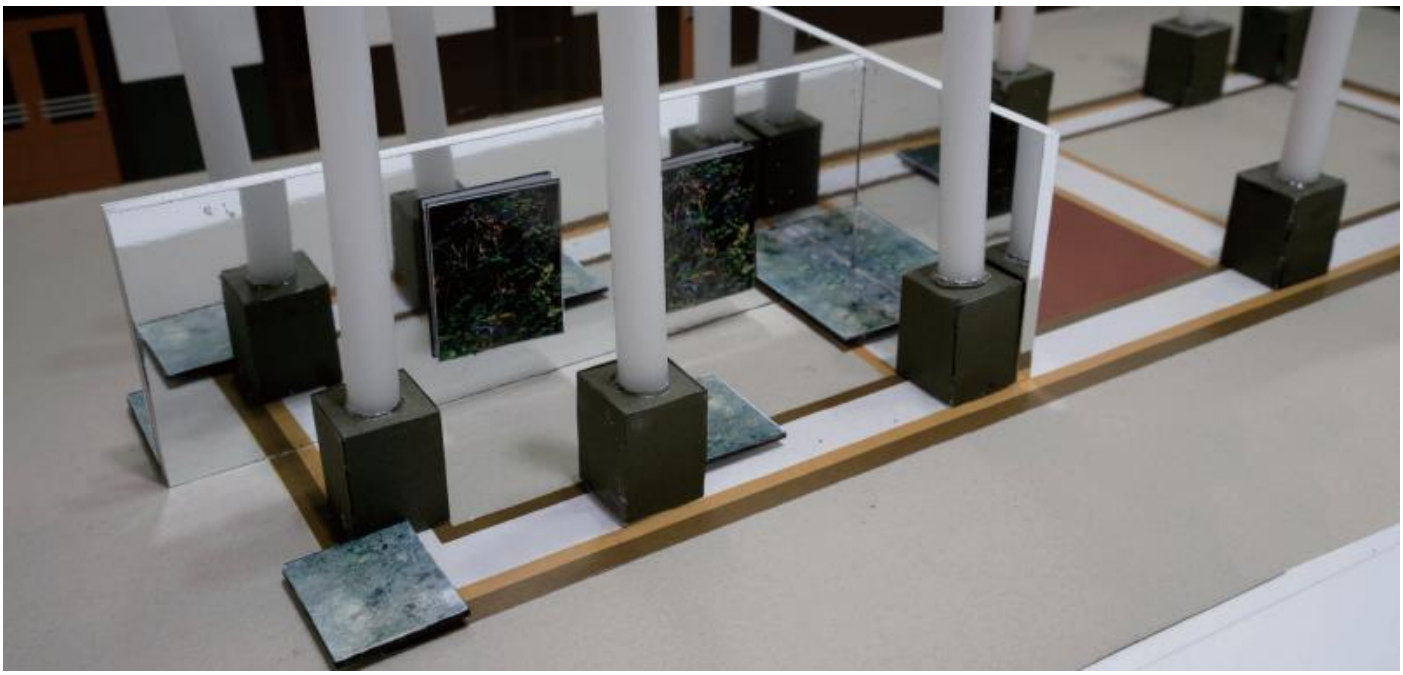
展示名（予定）	海の記憶を伝える 稲毛アーカイブ展
作品のテーマ	稲毛にはかつて「海気館」と呼ばれる洒落た旅館があり、森鴎外や田山花袋など著名な小説家などが訪れている。また、千葉県初の海水浴場として、多くの観光客が訪れ、貝の採取やのりの養殖も盛んで半農半漁の街としても知られていた。千葉市民ギャラリー・いなげでは、海辺の別荘地であった時代から海岸の埋立により大きく変化した現在までの稲毛の歴史を、当時の懐かしい生活風景の写真や実際に使われていた漁具などの展示等を行うことで、現代に蘇らせる。
点数（予定）	約 180 点（写真と資料）
会場と開館時間（予定）	千葉市民ギャラリー・いなげ２F
設営イメージ（予定）	

（6）会場設営イメージ

千葉市美術館さや堂①



千葉市美術館さや堂②



（7）参加アーティストによるワークショップやトークイベント

観覧する人が作品をより楽しめるよう千の葉の芸術祭出展作家の作品の被写体となるワークショップや、作品制作の意図やみどころなどを語ってもらうトークイベントを開催する。

【2021 年 5 月～9 月のなかで開催予定】

①ワークショップ：仮タイトル「本城直季さんの写真に写ってみよう」

千の葉の芸術祭出展作家の本城直季氏の作品に参加者が被写体として参加する。

その作品は千の葉の芸術祭写真展に展示予定。

②トークイベント：（仮）トークテーマ「千の葉の芸術祭とは」「千葉市出身の作家とディレクターによるトークイベント」　など。開催場所は写真展示会場など。

（８）市民参加企画

市民が気軽に千の葉の芸術祭に参加できる機会を提供する。

企画名称（仮）：だれでも CHIBAFOTOGRAPHER

企画概要（予定）：千葉市の魅力的なスポット等を市民が撮影して、芸術祭公式 WEB 等に投稿するイベント。投稿作品は芸術祭公式 SNS 等でも公表する。

（９）料金

鑑賞料及び参加料は無料。

（10）新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

事業内容等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、一部内容を変更することもある。

４．体験・創造ワークショップ

平成 28 年度から千葉市で始まった体験・創造ワークショップ「ななめな学校」を、これまで１回限りの受講形態だったものを、１講座につき連続して５回の受講回数とし、制作した作品を芸術祭期間中に発表を行うなど、千の葉の芸術祭版として開催する。

（１）ななめな学校とは

【コンセプト】

「ななめな学校」は、講座のテーマをわかりやすく設定し、教材等を普段の生活のなかにあるものを活用することで、市民（こども・大人）が気軽に文化芸術に参加してもらうことが目的である。また、第一線で活躍するアーティストやデザイナーが講師となることで、参加者が、いつもとは違った「ななめな」ものの見方で新しい表現にチャレンジできることも目的としている。千の葉の芸術祭でもこれまでの目的を変えず、かつ、受講回数や成果発表を拡充することで、これまで以上に市民の文化芸術活動への参加の促進や多くの市民が気軽に文化に触れる機会の充実が図れる内容とする。

これらを実現するため、講座内容を参加者の身近な素材や身近なテーマとしたり、講師として国内外で評価が高いアーティストの招致を行うこととする。

【参考】「ななめな学校」実績
H28 年度参加実績　延べ 75 人
H29 年度参加実績　延べ 286 人
H30 年度参加実績　延べ 441 人
Ｒ元年度参加実績（千の葉の芸術祭プレイベントとして開催）延べ 404 人

「ななめな学校」公式ロゴデザイン

（２）実施内容

①「ななめな学校」連続ワークショップ

講師名	子ども創造室
講師プロフィール	地域密着型の企画を行う市内企業（株式会社マイキー）に所属するアーティストが講師。株式会社マイキーは、西千葉を拠点に、ものづくりのスペース等を提供する「西千葉工作室」や、子どもたちが想像力を育める場として「子ども創造室」を運営している。
講座名（予定）	衣装をつくって仮装パレードをしよう！

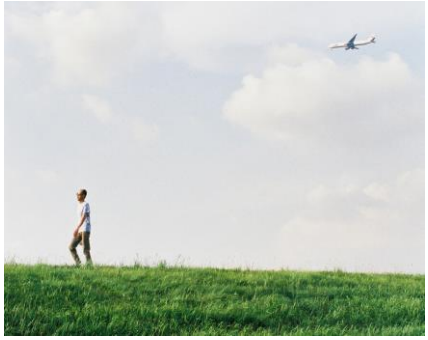
講座内容（予定）	【対象】小学３～6 年生　10 名 【内容】自分だけのキャラクターを考えて、それに合う衣装を作る。衣装の素材は日常で使われなくなった様々なものを使用する。 　最後に、自分が作った衣装を着て、発表を行う。 講座イメージ
講座開催日（予定）と開催場所	【ワークショップ開催日】 6 月 5 日（土）、6 月 19 日（土）、7 月 3 日（土）、7 月 17 日（土）、7 月 31 日（土）（いずれも 13 時 30 分～16 時 30 分） 【開催場所】千葉市生涯学習センター
作品発表日と場所（予定）	【発表日】8 月 8 日（日）時間調整中 【開催場所】調整中

講師名	関　美能留
講師プロフィール	劇団三条会主宰。演出家。1972 年埼玉県生まれ。千葉大学園芸学部中退。1997 年～2014 年まで千葉市を拠点に演劇活動を行う。2004 年に第 3 回千葉市芸術文化新人賞受賞。東京都内を中心に活躍中。
講座名（予定）	えんげき作品をつくる
講座内容（予定）	【対象】小学３～６年生　10 名 【内容】「学校の授業」をテーマに、演劇の練習を行う。演者としてだけではなく、照明や音響の仕事も理解して、様々な役割をこなしながら、最後は公演を行う。 講座イメージ

講座開催日と開催場所（予定）	【ワークショップ開催日】 6 月 5 日（土）、6 月 19 日（土）、7 月 3 日（土）、7 月 17 日（土）、 7 月 31 日（土）（いずれも 13 時 30 分～16 時 30 分） 【本番リハーサル】 8 月 6 日（金）、8 月 7 日（土）（いずれも 9～15 時） 【開催場所】千葉市生涯学習センター
作品発表日と場所（予定）	【発表日】8 月 8 日（日）時間調整中 【発表場所】千葉市生涯学習センター　小ホール 公演後に講師が作品講評等を行う 【講師による公演】 8 月 8 日（日）（時間調整中）に千葉市生涯学習センター大ホールで、劇団三条会の演劇公演を開催

講師名	吉開　菜央
講師プロフィール	1987 年生まれ。作品は国内外の映画祭での上映をはじめ、展覧会でもインスタレーション展示されている。ミュージックビデオの監督・振付も行う。 作品名『Grand Bouquet』（カンヌ国際映画祭監督週間 2019 正式招待）、『ほったまるびより』(第 19 回文化庁メディア芸術祭エンターテイメント部門新人賞受賞) 撮影　黒田菜月
講座名（予定）	五感を使って映画をつくろう！
講座内容（予定）	【対象】大人（中学生以上）　10 名 【内容】脚本や小説など、言葉を用いた物語を起点にするのではなく、視覚・聴覚・嗅覚など身体の感覚をもとにした映画製作を行う。 © Nao YOSHIGAI

講座開催日と開催場所（予定）	【ワークショップ開催日】 6 月 5 日（土）、6 月 19 日（土）、6 月 26 日（土）、7 月 17 日（土）、 7 月 31 日（土）（いずれも 13 時 30 分～16 時 30 分） 【上映会準備】8 月 20 日（金）9～21 時 【開催場所】千葉市生涯学習センター　など
作品発表日と場所（予定）	【発表日】　8 月 21 日（土）時間調整中 【発表場所】千葉市生涯学習センター　小ホール 公演後に講師が作品講評等を行う

講師名	金川　晋吾　　※千の葉の芸術祭「写真芸術展」参加作家 （出展作品展示会場：旧神谷伝兵衛稲毛別荘 1 F・B1F）
講師プロフィール	1981 年京都府生まれ。写真家。神戸大学卒業後、東京藝術大学大学院博士後期課程修了。2010 年に第 12 回三木淳賞受賞。2016 年に写真集『father』刊行。写真家としての活動の傍ら、ワークショップ「日記を読む会」を主催している。
講座名（予定）	夏への扉　日記をつける、写真をとる
講座内容（予定）	【対象】大人（中学生以上）　10 名 【内容】日記と写真はどちらも誰でも気軽にあつかえるものであり、私的な出来事や感情の記録となるものだ。日記と写真を使って、あとあと振り返ることになるかもしれない 2021 年夏の記憶を記録する。  講座イメージ
講座開催日と開催場所（予定）	【ワークショップ開催日】 6 月 5 日（土）、6 月 19 日（土）、7 月 3 日（土）、7 月 17 日（土）、 7 月 31 日（土）（いずれも 13 時 30 分～16 時 30 分） 【発表準備日】8 月 27 日（金） 【開催場所】千葉市生涯学習センター
作品発表日と場所（予定）	【発表日】8 月 28 日（土）～9 月 12 日（日）時間調整中 【発表場所】千葉市民ギャラリーいなげ 8 月 28 日は講師が作品講評等を行う

（４）料金

講座参加料（講座５回分と成果発表会参加及び材料費含む）は 3,000 円

成果発表会（劇団三条会の公演含む）の鑑賞料は無料。

（５）新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

講座内容や発表方法等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、一部内容を変更することもある。

５．伝統文化と新しい文化の発信

幕張メッセにほど近い県立幕張海浜公園内の日本庭園「見浜園」にて、市民の方のみならず来葉される方々を対象に、伝統文化の発信として「千葉市文化連盟」による伝統文化の体験・体験会を開催する。また、新しい文化の発信として、「一般社団法人 METACITY 推進協議会」と連携して、光を使ったインスタレーションや回遊式のエキシビションを展開する。

【会場】日本庭園「見浜園」（幕張海浜公園）

幕張海浜公園内にある日本庭園。池泉回遊式庭園で、山や川、海、林などが表現され、四季折々の自然美が満喫できる。

園　内　風　景

茶室「松籟亭（しょうらいてい）」

A.伝統文化の発信

千葉市の文化芸術の担い手である千葉市文化連盟が伝統文化の体験・鑑賞会を開催する。

（1）イベント内容

イベント団体	千葉市文化連盟
団体プロフィール	千葉市で活動している各種の文化・芸術団体が統合し、昭和 46 年に発足。代表的な活動として、「美術」「音楽」「演劇」「伝統芸能」「茶道華道」「文芸」の 6 分野からなる千葉市民芸術祭を毎年度開催しており、令和 3 年度で第 50 回を迎える。 現在、千葉市文化連盟に加盟している１０団体（千葉市美術協会・千葉市邦楽邦舞文化協会・特定非営利活動法人千葉市音楽協会・千葉市郷土芸能保存協会・千葉市演劇連盟・千葉市茶道華道協会・千葉市俳句協会・千葉市川柳協会・千葉市吟剣詩舞道連盟・千葉市短歌協会）のうち、千葉市茶道華道協会と千葉市邦楽邦舞文化協会が千の葉の芸術祭に参加予定。
会場	茶室「松籟亭」、パークセンター内休憩室

事業内容（予定）	【千葉市茶道華道協会による華道体験会】 場所：パークセンター内休憩室 開催日：令和３年８月６日(金)～７日(土) 午前１回（１時間程度）定員５名程度 午後１回（１時間程度）定員５名程度 参加費：検討中 申込：事前申込制 【千葉市邦楽邦舞文化協会による邦楽演奏会】 場所：茶室「松籟亭」 開催日：令和３年８月６日(金)～７日(土) 午前１回（30～40 分程度）定員４名程度 午後１回（30～40 分程度）定員４名程度 参加費：検討中 申込：事前申込制

（２）新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

事業内容等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、一部内容を変更することもある。

B.新しい文化の発信

幕張新都心を中心に活躍する一般社団法人 METACITY 推進協議会と連携して、見浜園庭園にて光を使ったインスタレーションや回遊式のエキシビションを展開する。

（１）一般社団法人 METACITY 推進協議会とは

METACITY

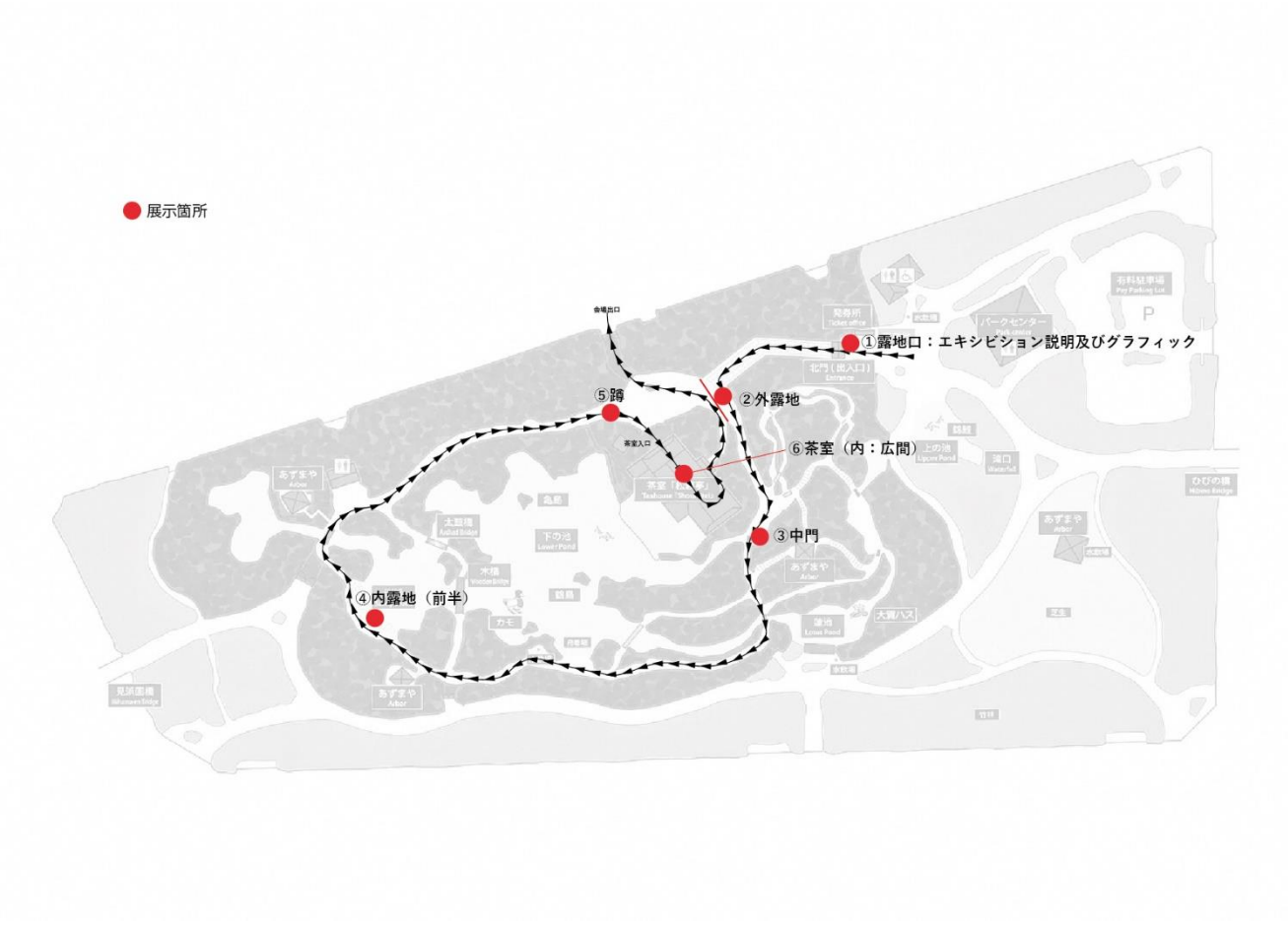
一般社団法人 METACITY 推進協議会は、芸術文化を基本的で重要な社会インフラとして捉え、豊かな芸術文化を育み続ける「ありうる都市」のかたちを探求し、その成果を世の中に提示し続けるリサーチ機関であり、クリエイティブ機関である。都市設計に関わる専門家だけでなく、芸術家や研究家、デザイナー、技術者、地域コミュニティ、企業、行政など、さまざまな視点と技能、資源や資産をもつステークホルダーと共に、プロジェクトの企画や運営等を行う。これらの活動を通して、幕張新都心を中心とした千葉市の価値向上に貢献する。

（2）イベント内容

参加アーティスト	【メインアーティスト】 The TEA-ROOM [redacted] 新たな茶の湯のあり方を探求するアート集団。茶の湯を庭、建築、絵、書、香、華、音、器、食、衣、礼で構成される日本の総合芸術として捉え、そのコンセプトをテクノロジーやストリートカルチャーなど現代的に翻訳し、新たな空間の設計や体験のプロデュース、アート作品の制作を行う。 【The TEA-ROOM 実績写真】 他、数組程度のアーティスト参加予定。
エキシビション名（仮称）	生態系へのジャックイン展
コンセプト案	市の花「大賀ハス」は、千葉市で発掘された古代ハスの「種」が開花したことで現代に復活した。また、海外でも人気が高い日本文化「茶」の起源は平安時代の僧である最澄が唐（中国）より、茶の「種」を持ち帰り比叡山のふもとに植えたのが茶の始まりと言われている。 この展覧会では「茶の湯」のプロセスを使って「生態系へのジャックイン」をする。 METACITY は、千の葉の芸術祭と連携して実施する本イベントを通して、幕張新都心が新たに生まれ変わるような「種」を日本の伝統文化の象徴とも言える「茶の湯」と最先端技術を通して表現することで、皆様に千葉市における未来の「ありうる都市」について体感・検証いただくきっかけとなることを目指している。

展示場所	「見浜園」庭園内および茶室「松籟亭」
開催期間と時間（予定）	令和３年７月２４日（土）～８月８日（日）　18 時から２１時（予定） 光を使ったインスタレーションや回遊式のエキシビションは暗く成り次第点灯

設営イメージ（予定）



（３）料金

入園料無料。

（４）新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

事業内容等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、一部内容を変更することもある。

6．市民参加について

千の葉の芸術祭で、鑑賞以外に市民が参加体験できる事業は下記のとおり。

分野	内容	参加人数	時期
写真芸術展	ワークショップ：(仮称)「本城直季さんの写真に写ってみよう」	１０組(1 組 2 名を想定)	2021 年 5 月予定
写真芸術展	市民による写真投稿（予定）	制限無し	2021 年 8 月予定
体験･創造ワークショップ	ななめな学校連続ワークショップ	10 名× 4 講座	2021 年 6 月～7 月講座 8 月～9 月成果発表
伝統文化の発信	華道体験会	５名× 4 回	2021 年 8 月開催

7．広報広告について（株式会社 ADK クリエイティブ・ワン受託業務）

（1） 広報の基本方針

(ア)市内外からの来場者の集客やイベントの認知度を高めるための効果的な広報

(イ)市民の生活に根差した媒体を活用し、千葉市への愛着と芸術祭へのモチベーションアップに繋がる広報

(ウ)費用対効果の高い展開による広報

(エ)新型コロナウイルス感染症対策に考慮した広報

（2） 実施体制

広報業務を株式会社 ADK クリエイティブ・ワンに業務委託し、効果的かつ効率的な広報推進を図る。

（3） 実施概要

(ア) 広報戦略の策定

・効果的で効率的な広報展開を行う

・アートディレクターおおうちおさむ氏が制作する芸術祭のロゴ､キービジュアルを基盤として活用する。

(イ) WEB サイト制作

スピーディで更新可能な情報発信ツールとして、ウェブサイトを制作する。

・簡易 WEB サイトを早期に制作、運営管理

・本格 WEB サイトを制作、運営管理

(ウ) SNS 活用

広報ターゲットである生活者が日常的に利用する最新メディアとして SNS を有効活用する。

・公式 SNS アカウントの開設、情報発信、運用（インスタグラム、ツイッター、フェイスブック）

（エ）印刷告知物制作

市民やターゲットへの芸術祭の認知獲得、会場の目印として印刷告知物を制作する。

・チラシ各種（芸術祭全体、各プログラムごと）

・ポスター（芸術祭全体、各プログラムごと）

（オ）大型掲示物

千葉市民及びアクセス圏内のターゲットへの開催の周知、街の芸術祭の機運醸成、展示会場の認知率向上のため、大型掲示物を制作・設置する。

・バス停サイン・駅ポスター掲出

・電車内ポスター掲出・駅改札外ビジョン掲出・のぼり制作

（カ）ガイドマップ

来場者に配布する千葉市の文化的魅力と街の理解につながるツールを制作する。

・芸術祭のコンセプト、概要・参加作家、作品紹介・芸術祭のスケジュール・会場アクセス

（キ）パブリシティ

新聞、テレビ、美術関連メディアに、芸術祭の情報を掲載したプレスリリースや写真データを発信し、記事としての掲載を促す。

（４）　広報スケジュール

2021 年 3 月：簡易 WEB サイト公開

2021 年 4 月：簡易ポスター掲出、簡易チラシ配布

2021 年 6 月：本サイト公開、プレスリリース配信、チラシ配布

2021 年 7 月：ポスター掲出、SNS アカウント開設

2021 年 8 月：大型掲示物掲出

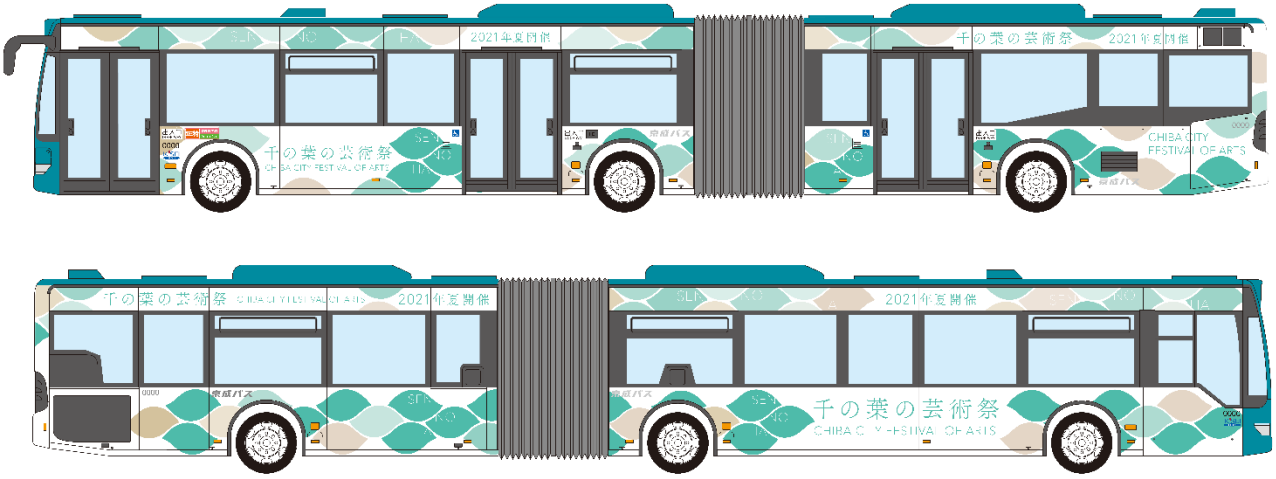
8．千葉都市モノレール、京成バス　千の葉の芸術祭フルラッピング広告

千の葉の芸術祭事務局にて、それぞれ、ラッピング施工業者の選定は終了している。

ラッピングデザインはディレクターおおうち氏のデザインとなっている。

・千葉都市モノレール運行期間：令和 3 年 3 月 26 日（金）～令和 3 年 9 月 30 日（木）

・京成連節バス運行期間：令和 3 年 5 月 1 日（土）～令和 3 年 9 月 12 日（日）



9． 各種認証マークについて

beyond2020 プロジェクト（認証組織：文化庁等)、「日本博」参画プロジェクト（認証組織：独立行政法人日本芸術文化振興会）の認証を取得済。

【beyond2020 プロジェクト】

2020 年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020 プログラム」として、文化庁等が推進している。

【日本博参画プロジェクト】

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成や訪日外国人観光客の拡大等も見据えつつ、日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興を図り、その多様かつ普遍的な魅力を発信するため、日本全国を舞台に「日本博」が展開される。

10. 輸送交通について

無料ガイドブックや公式ホームページなどで適切な情報発信を図る。